

OverLayPrintLight マニュアル

用途

スキャナ及びデジタルカメラで撮った画像を下絵として任意の図形や文章を加筆して印刷する。
この時、下絵と共に印刷するか加筆部分だけ印刷できるか選択できる。
これは、予め印刷された印刷物本体の上に加筆印刷することを意味する。

使用例（画像の一部）

※申請者

エコポイント登録・交換申請書

※1つの購入商品につき1枚の申請書をお願いいたします

申請者情報欄	フリガナ		
	申請者氏名	姓	名
	フリガナ		
	申請者本人の 現住所 (商品発送先 住所)	〒 ー 部 道 府 県 マンション・アパート名・部屋番号	

購入商品 カテゴリー	統一省エネラベル
---------------	----------

▼購入商品いづれか1つに○印を

① 予め用意された原稿
(スキャナーで取り込んだ)

※申請者

エコポイント登録・交換申請書

※1つの購入商品につき1枚の申請書をお願いいたします

申請者	フリガナ	オカモリ	
	申請者氏名	姓 岡森	名
	フリガナ		
	申請者本人の 現住所 (商品発送先 住所)		

② 文字入力後

オカモリ
岡森

③ 下絵を削除した印刷部分 (通常手書きで書く部分)

① の予め用意された (印刷された) 原稿をプリンターにセットして、印刷すれば、出来上がりが②の様になります。

特にプリンターにドットインパクトプリンターを使えば、カーボンコピーと同じ様に、複数枚同時に（複数枚同時に印刷するので、同一性が保証される）印刷できるので、宅配便送り状、銀行や役所用の申請書作成が簡単に作成でき、業務には大変向いていると思われます。

印刷されるのは③の部分ですが、**必要な箇所に正確に**印刷されます。

本ソフトの特徴

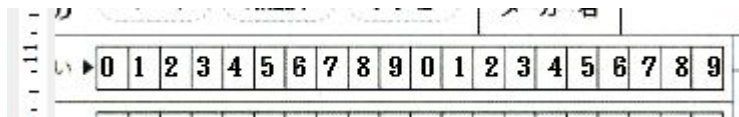
色々なデータからインポートできる。

一旦クリップボード経由でデータをリッチテキストボックスにインポートまたは画像形式で直接インポートすることによって PDF、EXCEL、WORD 等のデータをそのままや画像としてインポートして上にデータを上書きできる。

デジカメで撮影した画像の歪みや色などを編集して下絵として使える。

均等間隔文字列が使える。

与えられた下地原稿内で連続した正方形の枠内に入るように文字列を入力できる、



加えられた図形や文字列入力手順をセーブ、ロード出来る。

色々な画像形式でデータ出力出来る。

任意の座標位置に図形や文字列を加えられる。

0.1mm 単位でマウスや直接数値入力で位置を設定できる。

入力画像は予め設定された枠内に自動的に拡大縮小される。

線の幅は 0.1mm単位で任意色、文字列も文字間隔等任意に設定できる。

想定される使用状況

官公庁などから配布される所定書式の印刷物の上に必要な書き込みが手書きではなく、綺麗な印刷フォントによって作成できる。

銀行などに提出するカーボンコピーも必要な送金依頼書や信用状開設依頼書また宅配便等の送り状についてもドットインパクトプリンターを使用することにより書類作成が簡略化される。

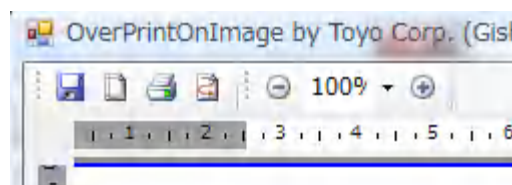
上書き部分の印刷時にドットインパクトプリンターの使用時における印字箇所ずれにも対応しています。
(上下左右のオフセット値設定 5mm 以内)

プログラム画面を小さくして、ネットブックでも非表示部分を無くし、使いやすくした。

横 805 縦 568 ドットです。

専用ソフトなので、使い勝手が良く価格もリーズナブルである。

操作方法（操作手順）



左上のメニューは、
データ読込
プリンター設定
印刷
画面再描画
画面の拡大縮小率設定
です。

その下のスケールは実際の編集している紙面のスケールです。

灰色部は設定された印刷用紙のマージン設定表示ですが、印刷時では関係なく印刷されます。

インクジェットプリンターでは全面印刷可能ですが、ページプリンターではハード上の制約により上下左右約 0.5mm の空白部が出来ます。

Filter 条件

画面の右下はコマンドボタンが有ります。

Filter条件

部分をクリックすると、下記のような設定画面がでます。

これは入力する画像に対して、予め色等の **Filter** 条件を設定します。



各詳細については別途ページで説明しますが、予め設定した条件を覚えておきます。

例えば、

toGrey は読み込む画像を白黒灰色に変換して読み込みます。

下絵黄色、下絵青は読み込む画像を薄い黄色または青色に変換して読み込みます。

これは、下絵原稿の画像が不鮮明でそのまま印刷するには不都合な場合、原稿を作り直すための各図形、文字位置の設定の為使用します。

二値化は、原稿画像を白黒で完全な白黒で表示します。灰色部分はどちらかになります。(どちらになるかは、閾値で数値で設定します)

薄色透明は薄い色を透明色として設定します。

通常は画像の白色部はそのまま白色として表示されるので下の部分は消えてしましますが、この設定で下の部分が透けて見えます。

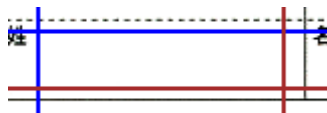
これは、通常書類の印鑑や手書きサインの画像データを加えるときに使います。

座標設定

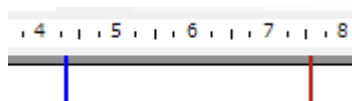
座標は、左上の設定はキーボード上の **Shift** キーを押しながら、左クリック
右下は **Shift** キーを押しながら、右クリックするか、直接キーボードより数値を
0.1mm単位で入力します。

直接数値を入力することによって、表の作成などがずれが回避されます。



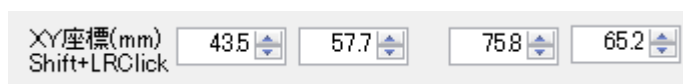


左上が青のラインの交点、右下が茶色のラインの交点です。
ラインの上や下の定規上のルーラを見ることによってだいたいの座標が把握出来ます。



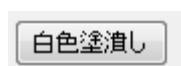
左上の X 座標が約 43mm Y 座標が 76mm で

正確な座標は

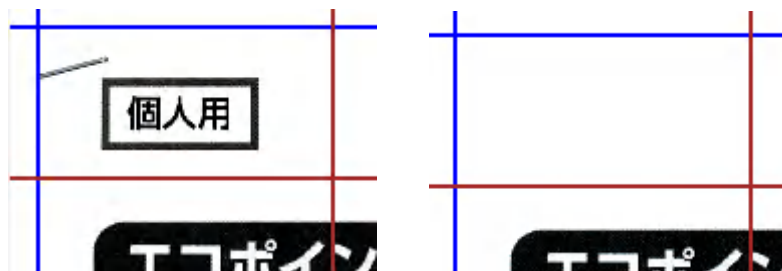


43.5mm 75.8mm です。

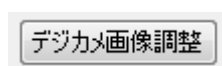
なお、拡大時における表示部分の移動は右や下のスクロールバーで行うか、画面の
任意の部分をクリックしながら移動することで行えます。
(拡大縮小はマウスのホイールでも可能です。)



白色塗潰し



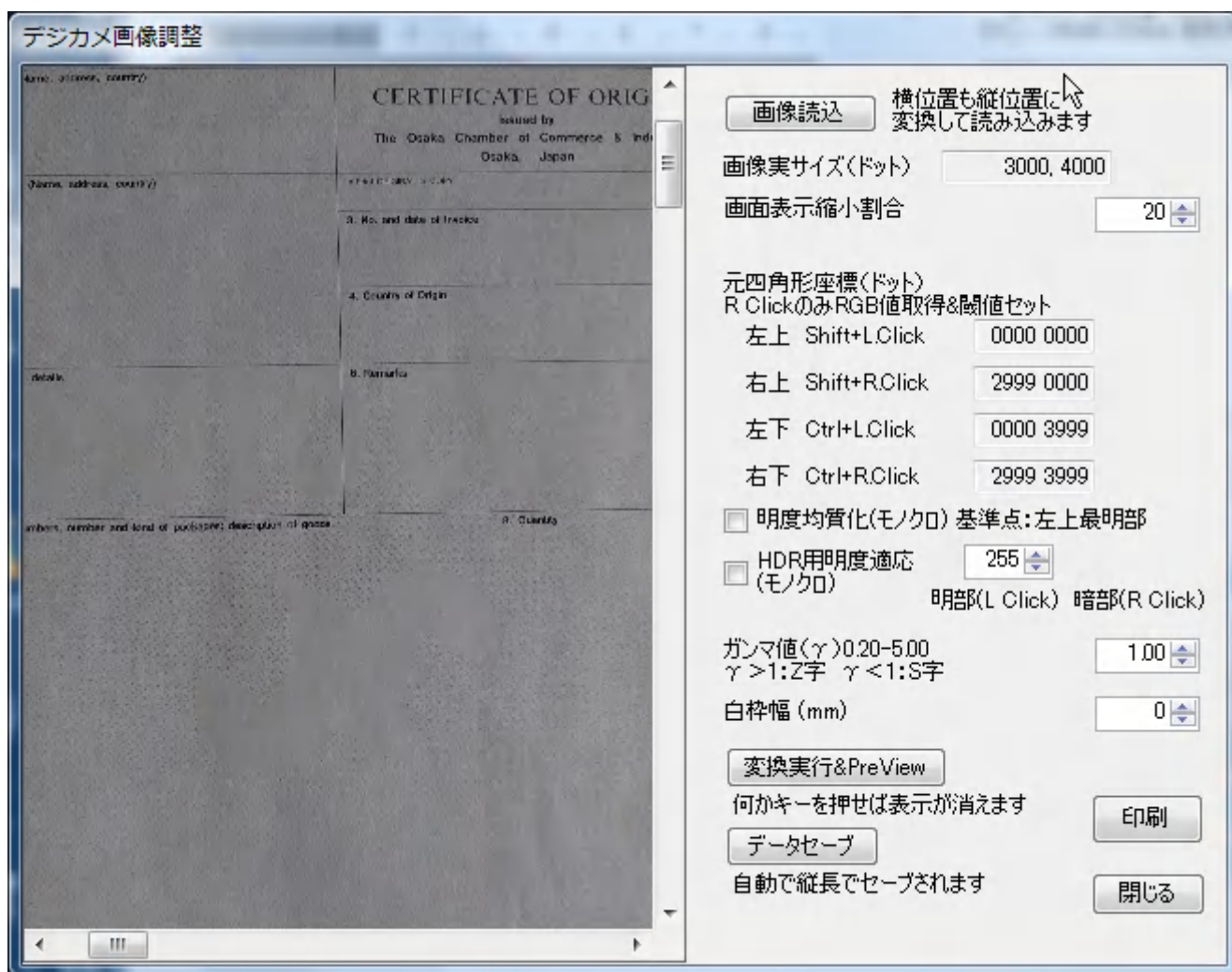
上記の様に指定矩形部分を白色で塗りつぶします。
原稿の余分な部分の消去用です。



デジカメ画像調整

別途リリースしている DigicameDeCopy の部分そのままです。
デジタルカメラ等で下絵部分を作成するときなどで使います。

別途 DigicameDeCopy のマニュアルを参照願います。



スキャナ読込

スキャナ設定画面でスキャナより、データを読み込みBMPファイルでセーブします。

BMPファイルを使うのはデータ劣化が無いからです。

通常JPGファイルはセーブ時にデータを間引くので、細い線などがあるデータ保存には向いていません。

保存ファイル名には、セーブ時の時刻及びデータのサイズ（mm 単位）が予め入ります。（セーブ時にファイル名変更可能です）

なおデータは300dpiで読み込んでください。

（読取り密度がインチ(25.4mm)あたり300ドット）



画像読込

色々な画像形式のファイルを読み込みます。

印刷画面全面（Filter無し）

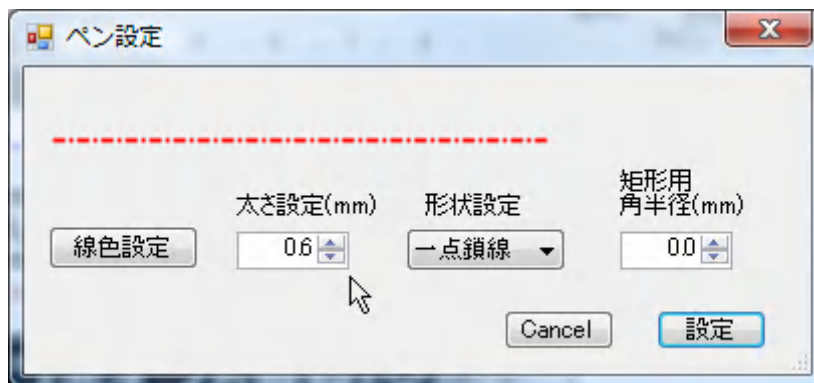
印刷画面全面（Filter有り）

予め指定された矩形部分（Filter有り）



直線描画、矩形描画、線スタイル

線スタイルは直線および矩形描画の線種設定です。

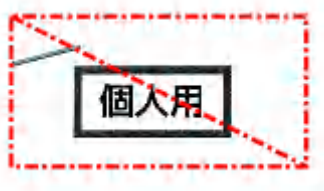


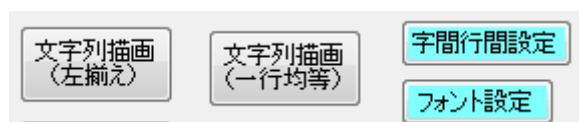
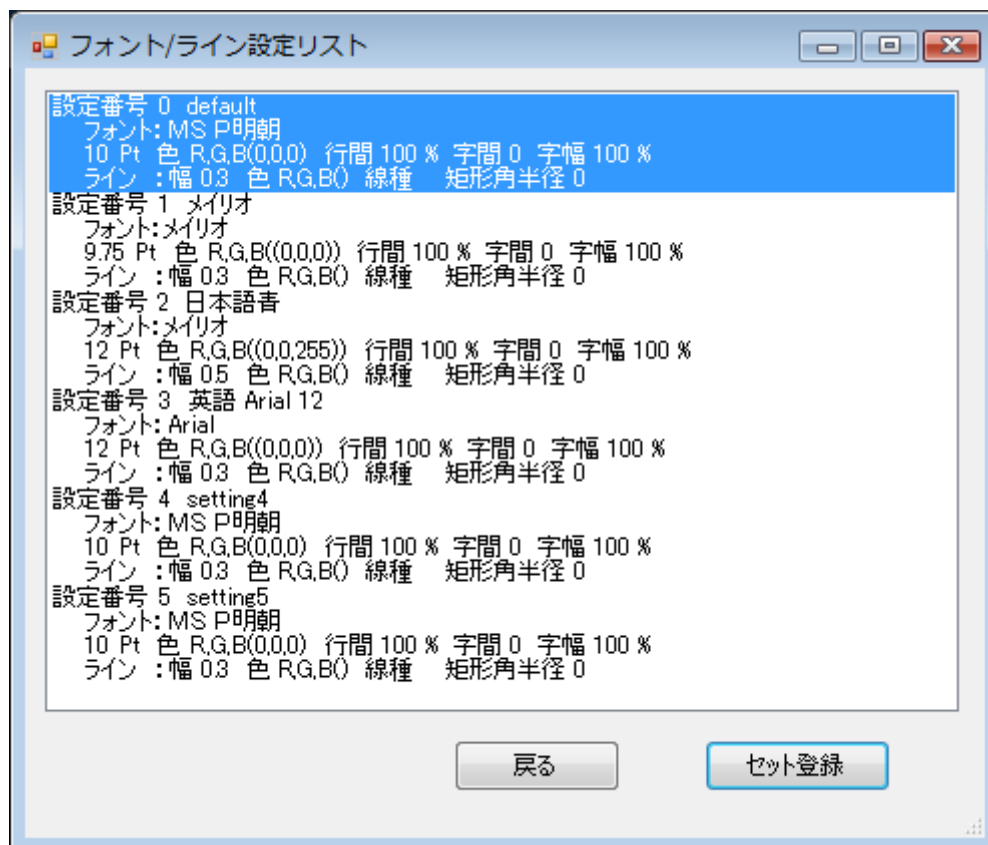
設定できるのは、線の色、線の太さ（0.1mm 単位）、形状（直線、点線等）
矩形描画時のコーナーの半径です。

設定された形状は大まかですが、上記の線の状態で判別できます。

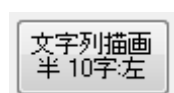


これは、プログラム本体部分の右上でも確認出来ます。（大まか）
初期状態に戻すには右の書式初期をクリックしてください。
予めセットされたフォント/ペンの選択画面がでます。
Shift+クリックでそれらのセットの登録画面が出ます。





フォント設定はフォント設定ダイアログの画面が表示されます。
設定画面の前に設定できるフォントを均等幅フォントだけか尋ねられます。
均等間隔文字列は均等幅フォント以外では問題が起こる可能性があります。
均等間隔文字列で挿入される文章は右側のボックスの一行だけです。



機能が追加されました。
均等間隔文字列のボタンに予め充填文字、均等間隔文字列の文字数、左揃えか右揃えかの設定がどうなっているのかを表示されています。
設定の変更は **Shift** キーを押しながらクリックすると



のフォームがでます。

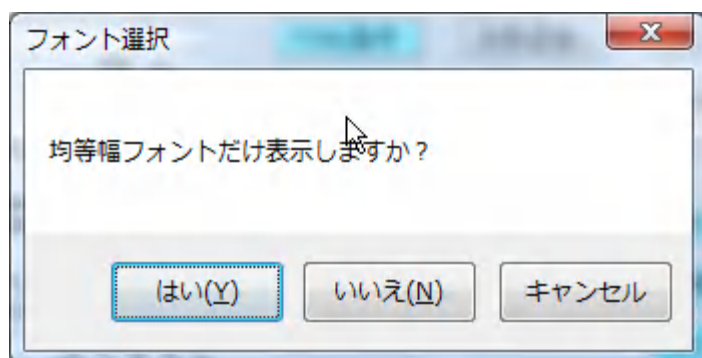
通常は、充填文字が全角空白です。

これを全角*に設定し、12文字、右詰に設定すると、

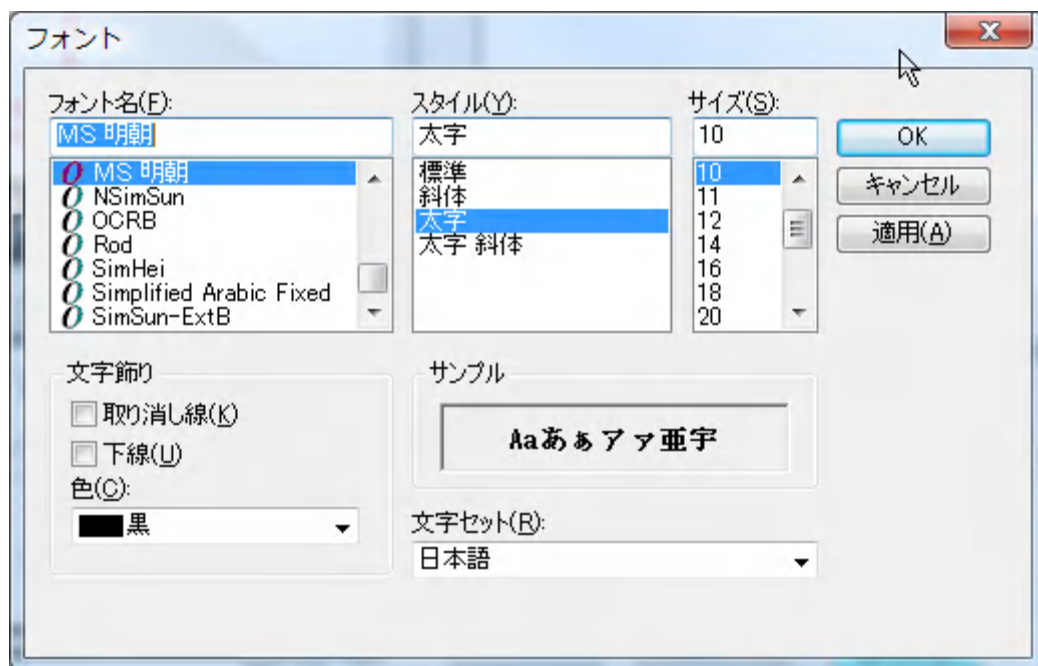
*****¥567, 890

のような文字列が設定されます。

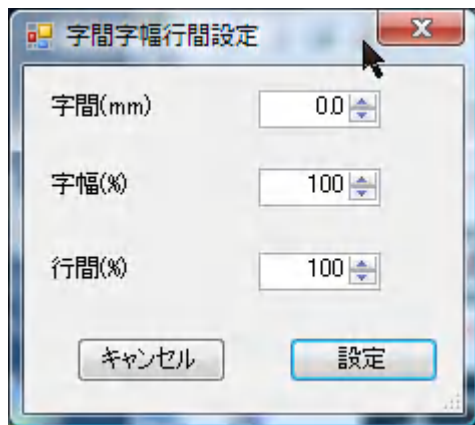
¥567, 890の文字列は右側のボックスに入力されている一番上の行（一行分だけ）です。



文字列描画（左揃え）のボタンを **Shift** を押しながらクリックすると、左揃え、中央揃え、右揃えの設定を聞いてきますので、0（左揃え）、1（中央揃え）、2（右揃え）を入力して下さい。



フォント設定ダイアログ画面



字間字幅行間設定画面



予め左の表示部分に矩形を設定して、右のボックスに文章を入れ、文字列描画（左揃え）をクリックした結果の画像。

設定部分を超した場合は無視されている。

右側のボックスの文章はフォントサイズ 12 p t であるが、左側の表示画面では設定の 10 p t で有ることに注意。

右の情報通り表示（入力）するには、下にあるリッチテキストボタンを使う。

文字列描画（一行均等）は均等幅文字列用で、一行だけ必要な文字数を入力する必要があります。（右のボックスの一番上の行のみ）



リッチテキスト ClipToRich

リッチテキストは、データは W i n d o w s 付属のワードパッドや MS Word などを使用して必要部分を選択後（マウスでクリックしながら選択部分を設定） Ctrl+C の二つのキーを同時に押すか、右クリックでサブメニューから Copy を選び、データを一旦クリップボードにコピーする。

その後、上記 ClipToRich ボタンを押せば右上のボックスに転送表示されます。

予め左画面で入力予定矩形部分を設定しておいた後、リッチテキストボタンを押せば左画面に表示されます。

これは、PDF やエクセル画面からの転送（クリップボード経由のインポート）となります。

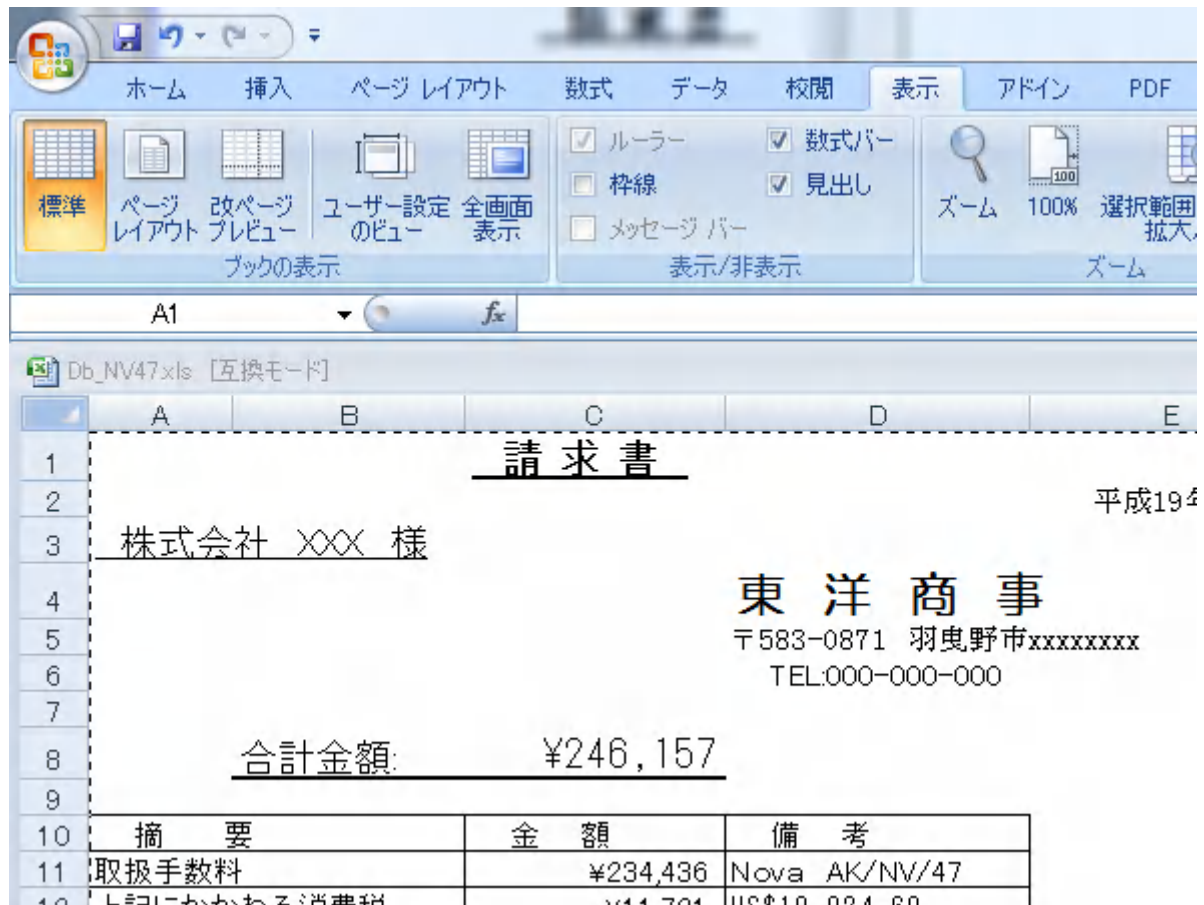
転送できるデータはクリップボードの仕様（Windows の）準じますので、出来ない場合もあります。

文章だけでなく、エクセルの図表やペインターの画面のクリップからのインポートも出来ます。

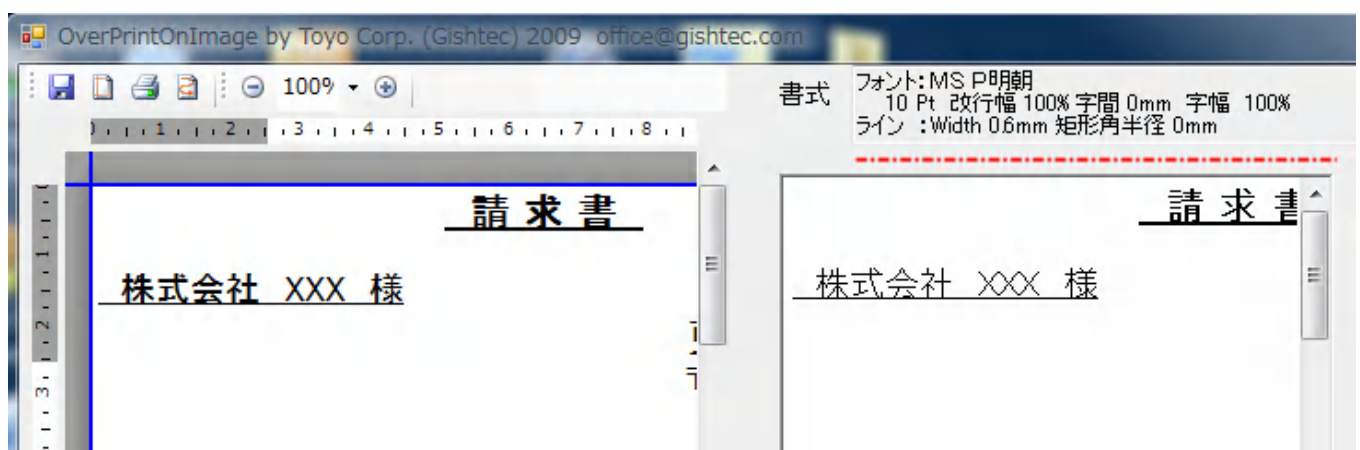
エクセルのデータのインポート

エクセルで必要なデータを表示、メニューの表示の表示/非表示の中の枠線のチェックを外して、枠を表示されないようにする。

必要部分を選択後、コピーする。(これでデータはクリップボードに)



エクセルの画面 (ページレイアウト→枠線の表示チェックが外れている事)

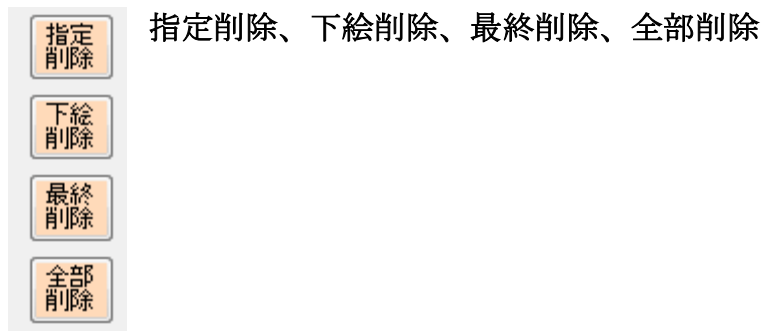


当ソフトの画面結果

これでエクセルのデータのインポートは OK です。

画像データの場合は Windows 付属のソフトのペイントなどで必要な部分をコピーして ClipToRich リッチテキストで OK です。

右上のリッチテキストのデータクリアは Ctrl+A で全部選択の後、Del キーで消去出来ます。



指定削除は

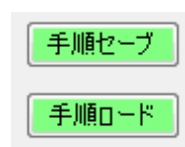
オブジェクトリスト				
リッチテキスト	000.0mm	000.0mm	210.0mm	297.0mm
リッチテキスト	005.4mm	068.1mm	073.1mm	100.6mm

右の数字は矩形の座標です。

リッチテキストは右のリッチテキストボックスからのデータと言う意味です。

の様なリストがでるので、該当データ部分を選択反転させた後、下の該当データ削除ボタンをクリックしてください。

他の、下絵削除、最終削除（最終データ削除）、全部削除と同様、元に戻せませんので注意してください。



手順セーブ、手順ロード

データは拡張子 C1D, C1L など複数のファイルを作るので、一方だけ消去しないで下さい。

機能追加

データをクリップボード経由のリッチテキスト形式とは別に画像データとして直接インポート出来る様になりました。

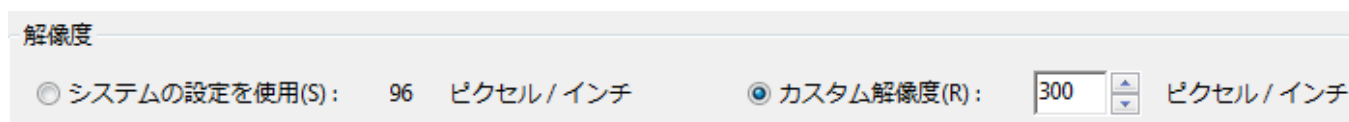


C l i p T o I m a g e がそうです。

使用例として、PDFからのデータインポートを説明します。

まず、Adobe Reader 9 の設定から

「編集」 環境設定の画面より



解像度を印刷に適切な 300ピクセル/インチに設定します。

余り値を大きくすると使用するメモリー量が大きくなるので、この位が適当だと思われます。なお、スキャナーでも読取り密度は同じく300ピクセル/インチが妥当でしょう。

(1インチ=25.4mmあたり密度が点300ドットと言うことです)

その後で、適当なPDFファイルを読み込んだ後、読み込むべきページを表示して

「ツール」 「選択とズーム」 「スナップショットツール」 を選択した後
左クリックとそのまま左クリックしながら選択する右下までドラッグして離すと、選択部分がクリップボードに転送されます。

当ソフトで Shift+左クリックで画面上と Shift+右クリックで転送先の矩形部分を設定した後に、



「画面読込 (F i l t e r 範囲)」をクリックすれば転送されます。

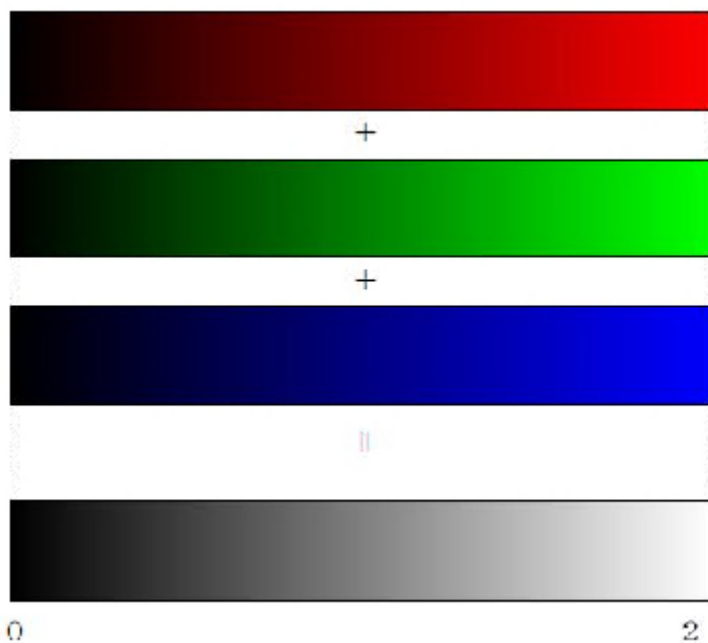
予め「F i l t e r 条件」でフィルタ設定しておいて下さい。

通常の画像の画面のケースでは、例えばWindows 付属のペインターなどではメニューで矩形部分を選択した後コピーコマンドでデータはクリップボードで転送されるので同様の処理です。

Windows のデスクトップの一部を切り取るのは、画面全体ではキーボードの上部の「P r t S c」キー、ソフトの画面だけを切り取るにはA l t キーを押しながら「P r t S c」キー、画面の任意の部分を切り取るにはフリーソフトの「fc_prsc.exe」などを使うと良いでしょう。

色調整パラメータ (Filter)

RGB (光の三原色) とその加算



書く色の強度は0から255までの整数表示か0から1.0までの小数表示で表すことが出来る。

例えば

真っ赤なら RGB(255,0,0) RGB(1,0,0)

真っ黒なら RGB(0,0,0) 現在のどちらの表示でも、

また、透明部分を使うなら、Photoshopなどで有名なアルファチャンネルを使う。

完全な透明なら上記3色プラス α 値を使って RGBA(1,1,1,0) となる。

(色の並びはこれと違うことがあるので注意のこと)



ガンマ値

入力画面データのガンマ値を設定

GrayFlag

カラーでなく白黒グレーで出力

RGB 各色について、倍率増減

倍率： 入力値 (0-1.0) を計数を変化

増減： 入力値の増減 最大値は 1.0 最小値は 0 にセット

例えば 新しい R は 古い R で表すと $R \cdot a_1 + a_2$ a_1 : 倍率 a_2 : 増減

アルファ値

透明に設定される数値

0 なら完全透明 1 なら完全に不透明

そのアルファ値を

$\alpha = (R+G+B) \cdot a_1 + 1 + a_2$ になるように設定する

設定例なら $(R+G+B) \cdot (-1) + 1 + 1.4$

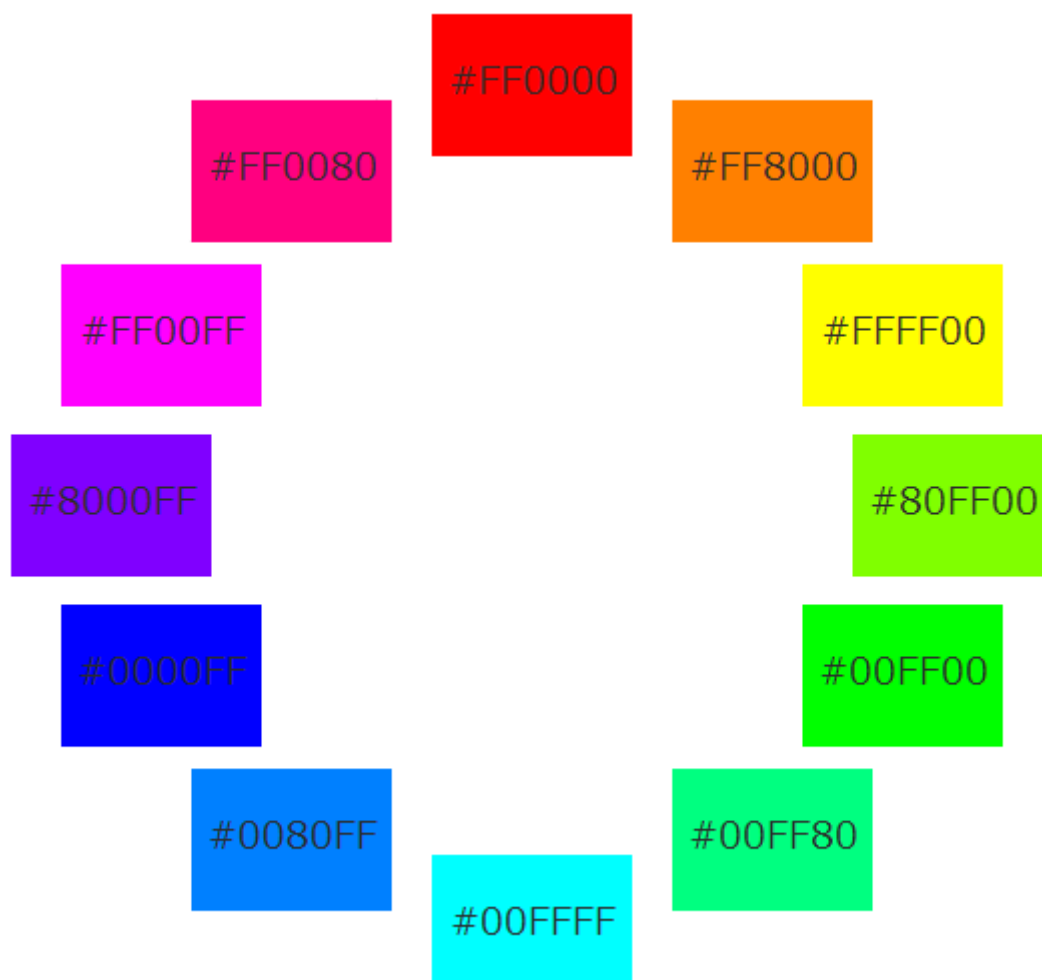
$R=0.7$ $G=0.7$ $B=0.7$ の時 $-2.1+2.4=0.3$ となりほぼ透明

$R=0.8$ $G=0.8$ $B=0.8$ の時 $-2.4+2.4=0.0$ となり完全透明でこの数値より明るければ透明
(値がマイナスになると 0)

$R=0.4$ $G=0.4$ $B=0.4$ の時 $-1.2+2.4=1.2$ 最大で 1.0 で完全不透明

係数登録呼び出しボタン

予め設定された係数を呼び出し、また登録できる。

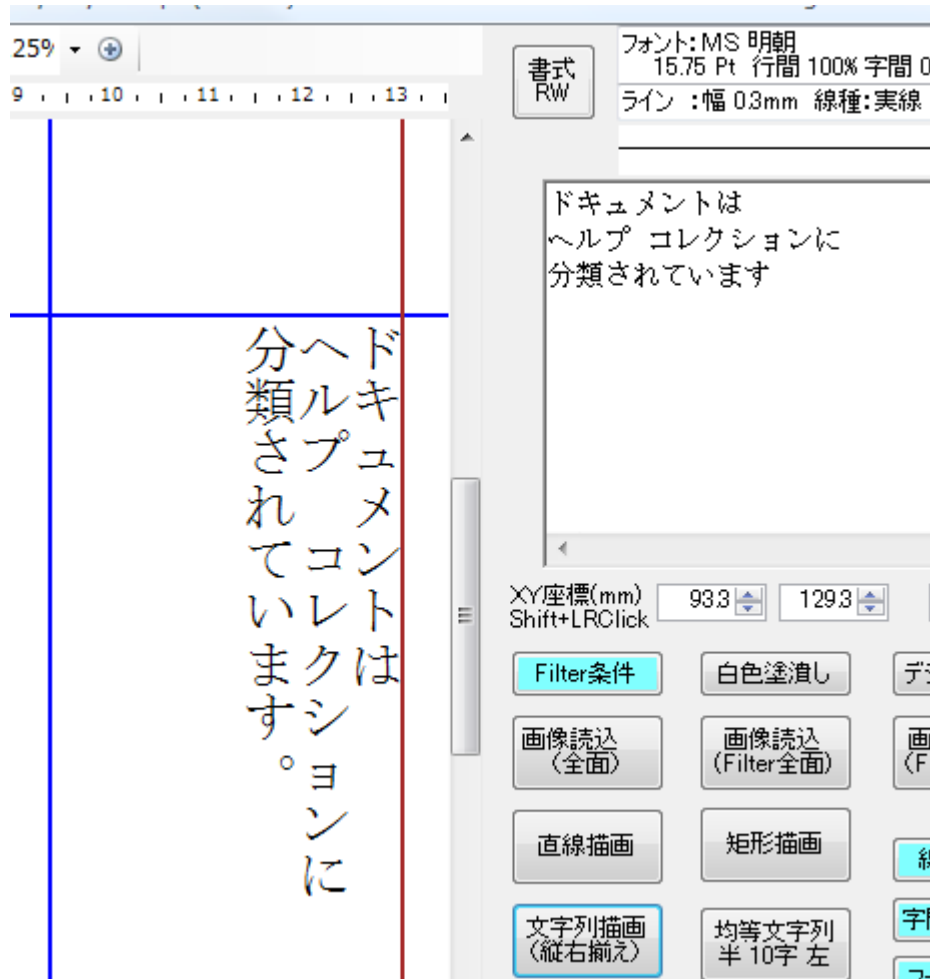


FF は 16 進法表示なので、10 進法表示なら 255 となる。

現在の問題点および改変予定

機能追加

縦書きに対応しました。



文字列描画のボタンを S h i f t キーを押しながらクリックすると、左揃え、中央揃え、右揃えに追加して、縦右揃えの選択ができるので、3を入力すれば、縦書きが可能となります。ただし、フォントは均等幅フォントで全角文字のみ（全角空白のみ）対応です。また、句読点や括弧には対応していません。必要な時は、別途一字だけ、適当な箇所に右揃えで追加して下さい。（上の例では“。”だけ、追加してあります）

問題点

縦書き時において、当ソフトが使用しているライブラリーが縦書きフォント（例 @MS 明朝
と言うように頭に@マークがついている）が使用できない。

つまり、（ とか 。 とかの印字が縦書き時に正常に印刷できない。

回避策として、通常文字列と縦書きしなければならない文字列を別途印刷することによって行
っておりますが、これは左揃えで一行だけ可能です。

この時2行目印刷の為に、自動で印字位置が左側に一行分移動します。

また、この印刷のための右に90度回転させなければならないフォントを実行フォルダーに存
在する、 **OverLay.ini** ファイルの内部に、

```
[[Initial]]
```

```
picOffX=3
```

```
picOffY=25
```

```
offsetX=0      下書き抜き印刷時の印刷位置ずれ設定値 横方向
```

```
offsetY=0
```

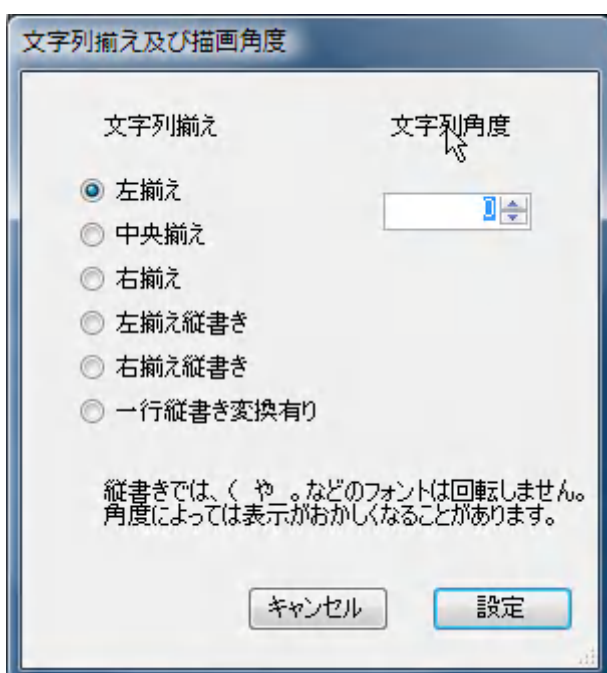
```
Zenkaku1=。 「」, ' ' (), -. / : ; <=> [] ` { | } ~ -
```

```
Zenkaku2=° 「」 "' ^ (), -. \ : ; <=> [] ` { | } ~ -
```

Zenkaku1, Zenkaku2のエントリーをもうけてあります。

上のZenkaku1のフォントが、 下のZenkaku2の対応する文字の右90度回転したフォントに
なります。（句読点は角度に使用する ° や ' のフォントを回転して代用）

また、2度同じ箇所に縦横に渡って印字するために、フォント設定の行間隔/文字間隔の数値は
そのままにして下さい。（変更すると印字位置がずれます）



設定の文字列回転角度は左回りです。また回転すると文字間隔列間隔設定の表示に問題が起こります。

将来の予定

複数ページ対応（別途ソフトで）

通常の業務では書類を同時に複数枚 **PDF** ファイルにして扱うことが多いので、**PDF** のページの編集機能を追加したバージョンをリリース予定です。

同時に本体も複数ページに対応予定です。

編集して出力した結果の **PDF** ファイルそのままメールで送る。

スクリプト（マクロ）対応予定（別途ソフトで）

プログラムの操作に慣れてない方や何回も紙面の記入時に質問に答える事によって通常の業務ルーチンをこなすための別途プログラムを準備中です。

フォントなどの定義セットを編集、登録 ← 機能追加しました。

適時、複数のフォント、サイズなどのセットを登録して、必要時に呼び出すようにします。

OverLayPrintLight

このソフト無償になりました。

Toyo Corporation, Osaka

e-mail: office@gishtec.com

<http://gishtec.com>

追加情報

このソフトはシェアウェアである。

(オープンソースの OpenCv/スキャナドライバまた ComponentOne のライブラリを一部使っています)
利用できる Windows は Xp,Vista です。検証はしていませんが、2000 や Server2003 でも OK だと思います。
なお利用には Microsoft から配布されている (無償です)

Microsoft .NET Framework 2.0 SP2 またはそれ以上

Microsoft Visual C++ 2005 Redistributable またはそれ以上

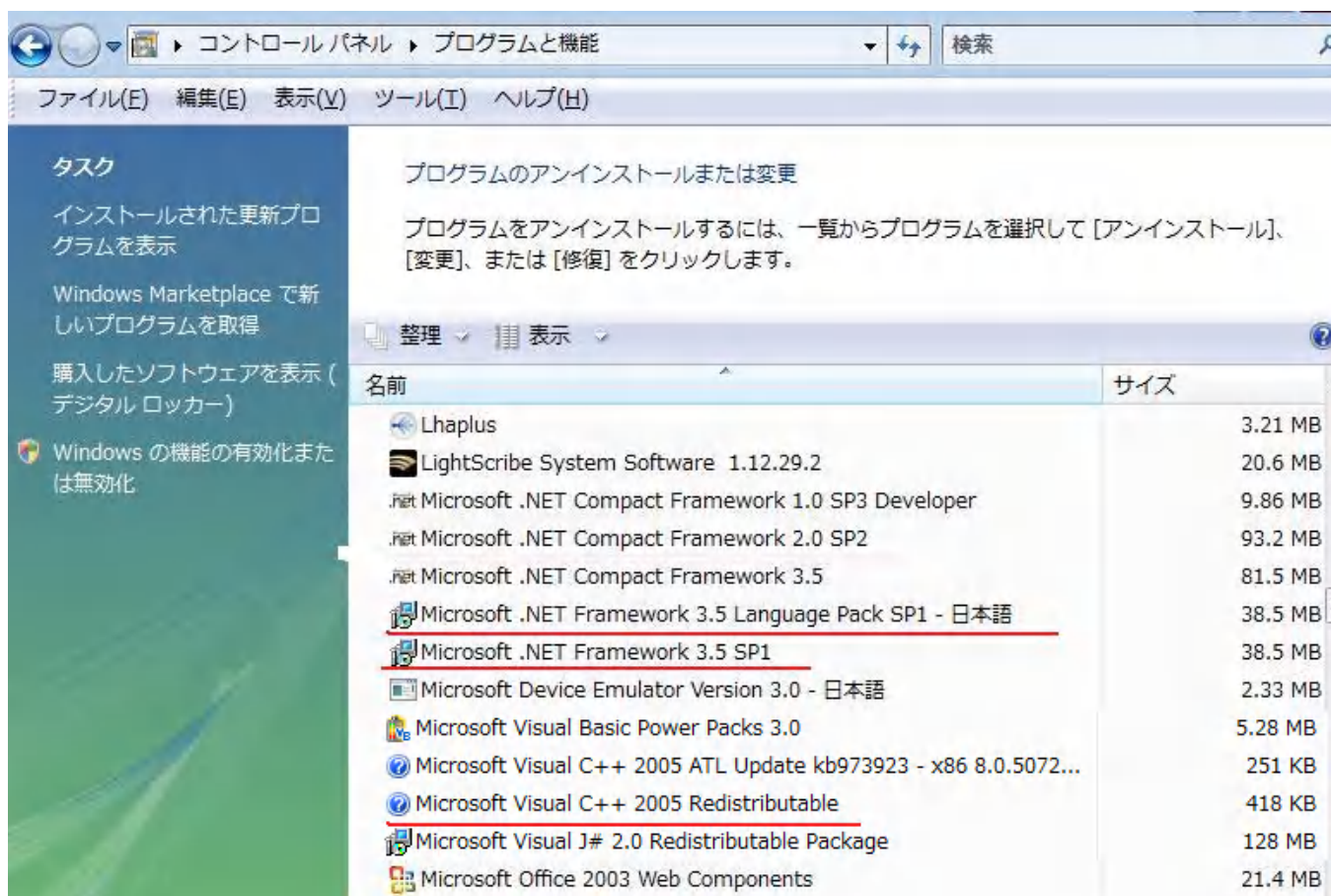
確認するには、コントロールパネル→プログラムと機能で確認して下さい。

ソフトのインストール方法

Setup.exe をダブルクリックして、実行して下さい。

アンインストールは「コントロールパネル」の「プログラムの追加、削除」または「プログラムと機能」で、「OverLayPrintLight」を選んで削除を実行して下さい。

質問等は office@gishtec.com まで、お願いします。



Framework 3.5 SP1 の場所

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=333325FD-AE52-4E35-B531-508D977D32A6&displaylang=ja>

Framework 3.5 Language Pack SP1 エラーを日本語表示するため（べつに必要なではない）

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyId=C78987B9-97F4-455F-BEE7-F6BFA4AD774E&displaylang=ja>

Visual C++ 2005 Redistributable

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyID=32bc1bee-a3f9-4c13-9c99-220b62a191ee&displaylang=en>

ページは英文だが、ページ中央の Change Language で日本語を選択後 Download ボタンを押す。

Vector からでも Download 出来ます。

<http://www.vector.co.jp/soft/win95/util/se390159.html>

1,000円を追加願えば、ソフト本体と上記ライブラリが入った CD をお送り致します。